

カードがなくなりました・・・

ある教育雑誌を見ていると、小学5年と1年の子どもをもつ母親から、子どもたちの間で流行しているカードがなくなり、1人を疑ってみんなが責め、トラブルになった場合の親の対処の仕方についての相談があり、その対応として、示唆に富んだ内容の回答が載せられていましたので紹介します。

「＝子育ては親育ち、じっと我慢の時です＝

結論から言えば、もうお気づきのように、『親は口を出さないほうが絶対にいい』のです。私は、職業柄、子育て真っ最中のお父さんやお母さんの相談に乗っていますが、『子育ては親育ち』を実感しています。今が我慢の時。じっと我慢して、子どもたちの『トラブル』を見守られてはどうでしょうか。きっと悪い結果にはならないと確信しています。

もし不幸にも、1人の子どもがとっていたとします。その子にとっても、厳しい試練の時です。正直にごめんと謝る『学習の機会』でもあります。反対に全くの濡れ衣であった場合は、自分ではないことを主張すべき場面であり、その子も親の手を借りずに解決のためにがんばらねばなりません。社会に出れば、それ以上の理不尽なことがいっぱいあるのですから。

要は、親が口を出すことによって、子どもの学習の機会を奪ってしまうことになりかねません。当事者が我が子であった場合などは、身を切られるほどの思いでしょうが、じっと我慢することで、親としての必要な力を育てることにつながります。

＝様子がわかれば、解決だ＝

次に、問題の解決の方向を示しておきましょう。

子どもというものは、万事にこのようなもので、日常茶飯事と言えるでしょう。こうしたトラブルの解決には、結論を急ぐのではなく、もつれた糸をほどくように、じっくりと様子を見つめることです。様子さえわかれば、解決します。そのため、担任の先生にそつと用件を伝え、解決を依頼します。担任は、きつとうまく問題を解決してくれます。

例えば、この場合、子どもたち全体に『被害児童の無念さ』等の話をし、最後に『正直にそつと言ってきてくれることを先生は信じているよ』とまとめます。担任の心からの訴

えにしらを切り通すことができるほど、子どもの心が病んでいるとは思えません。今までも必ず解決してきました。

このように、子どもたちを信じて、じっと我慢をするところに親としての成長があり、子育ての喜びがあるものです。」

子どもと共に、悩み、考え、成長する親であってほしいものです。

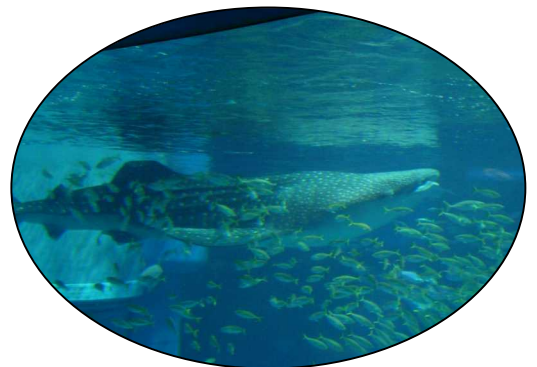
〔多くのことを学んだ遠足〕 -グループで行動-



3日に、3・4年生が遠足で、海遊館と水上消防署に行きました。海遊館では、3・4年生が、4～6人のグループに分かれ見学しました。

まず、各グループ毎に、エスカレーターで最上階まで上がり、「日本の森」から見学を開始しました。当日は、大変多くの人が見学に来ており館内は混雑していましたが、子どもたちは、「海遊館見学グループカード」を持って、班長を中心に、みんなで協力しあって上手に見学をすることができました。

また、世界のいろいろな海や川に住む魚や動物などを見つけ、「海遊館見学グループカード」に記録していくのですが、ほとんどのグループが、しっかりと見つけることができていました。大きな水槽の中で泳ぐジンベイザメやいろいろな種類の魚が泳いでいる様子を見たり、イルカ、アザラシ、ラッコなどを水槽越しですが目の前で見ることができたりと子どもたちは、貴重な体験をすることができました。



昼食後、水上消防署の見学に行きました。最初に、消防署の方より話を聞き、続いて、実際に消防艇に乗せていただきました。各学級毎に分かれて乗ったのですが、子どもたちは、艇内を興味深く見学していました。

好天気に恵まれ、子どもたちにとっていろいろな体験ができた遠足でした。

